

# エネルギー・環境政策選択

東アジアのエネルギー・環境政策選択  
2014年6月14日、植田和弘(京都大学)  
名古屋大学、[ueta@econ.kyoto-u.ac.jp](mailto:ueta@econ.kyoto-u.ac.jp)

# 4つの講演へのコメント(1)

- 3つのテーマ: ①東アジアにおけるエネルギー利用の持続可能性と安全性、②環境と経済の両立を目指した環境税制改革、③自由貿易の進展と経済・環境影響: integrated model分析
- 分析するモデルの選択とモデルの扱う範囲・前提・仮定とパラメータ、energy技術と市場
- グローバル化影響と(東アジア)各国政経選択
- 気候変動政策の評価: GDPへの影響ということに加えて、エネルギー安全保障(自給率の向上+多様性の向上)

# 4つの講演へのコメント(2)

- RCPシナリオ: エネルギー構成はモデル内生的に解く: referenceケースでは化石燃料が76%であるが、緩和策で特に石炭が減少
- 原子力、再生エネの増加
- RCP2,6シナリオ: 再生エネが大きく増加
- 貿易の自由化: 特に日本でのCO<sub>2</sub>排出の増加: 電力産業がより石炭を使うようになる
- TPPに入らなくても中国CO<sub>2</sub>排出は増加: グローバル・サプライチェーン問題

# 4つの講演についてコメント(3)

- ETRの実践とその後:ヨーロッパの経験
- ETRの当初の狙い(二重の配当)
- 「減税対象の選択問題」から(エネルギー価格の高騰を媒介に)「財政赤字を埋める増税対象の選択問題」へ
- (EU,米)エネルギー事情+財政(赤字)事情+EU-ETSの存在
- 東アジア各国・地域の比較unique、相互作用